

## 坂西横穴墓群



日野台地に入込む谷戸の奥まった東面する崖に営まれた7～8世紀頃の横穴墓群である。かつて、この谷戸は豊富な湧水が湿地を作り、矢ノ川という小さな流れが多摩川に向かって流出していたが、甲武鉄道（現 JR 中央線）の工事の際に埋め立てられた。1974年（昭和49年）に、道路工事中に発見され、7基の横穴墓が調査された。現在、1号、3号、4号墓の3基が保存されている。

本横穴墓群で最も注目されるのは、1号墓である。羨門、羨道、前室、後室からなり、各々の側壁及び奥壁が同張りを有し、前室天井がアーチ状、後室天井がドーム状を呈する。羨門から奥壁まで約5.9mあるが、壁及び天井全面に白色粘土が塗布されていた。

1号墓の白色粘土や4号墓の壁面には、戯画や永仁2年（1294年）、永仁6年（1298年）の年記を含む文字が線刻されているが、これらは盗掘の際に刻まれたものと推定される。

（『日野市の文化財』1994年3月31日発行より）

昭和53年3月16日指定